



◎ 未来へつなぐ山科の記憶 ◎



モノクローム ヤマシナ

◎ 未来へつなぐ山科の記憶 ◎



モノクローム  
ヤマシナ



山科区役所  
Yamashina  
Ward  
Office

# 「写真集 モノクローム ヤマシナ」 はじめに



聞き取り取材

## 未来へつなぐ山科の記憶



京の田舎民具資料館見学

**昔**の山科の記憶を写真で残そう、まちの歴史を学び、これからのまちづくりをみんなで考えようと、「写真で語る山科の今・昔」ワークショップの参加者を募集したのは、一昨年10月でした。応募された区民の皆様と京都橘大学の学生の皆様が「パッチリ山科みつげ隊」を組織し、区役所の職員も参加して、写真の収集とそれにまつわるエピソード等、各方面の取材をまとめてあげられたのがこの写真集です。

ここでは、昭和の時代に大きな変貌を遂げる山科の様子が約200枚の写真と人々の語りによって鮮やかに浮き彫りにされています。田んぼや竹やぶが広がるのどかな風景や高度経済成長以前の人々の営みなど、その時代を生きた方々には懐かしく、また、それより若い方々には現在とかけ離れた姿に驚きの1枚もあることでしょう。

これらの写真から今後の山科のまちづくりに思いを馳せ、次代に引き継ぐべきものはしっかり残し、また、再生できるものは復活させるなど、区民の皆様とともに「住んでいて良かった、いつまでも住み続けたい」と実感していただけるまちづくりを進めて参りたいと考えております。

最後に、貴重な写真のご提供や取材にご協力くださいました区民の皆様、そして、誰よりも昼夜をいとわず、企画段階からこの活動に大変熱心にご参加くださいました23名の「パッチリ山科みつげ隊」の皆様にお礼を申し上げますとともに、写真集の発行に当たり、大所高所からご指導いただきました京都橘大学の木下先生、「山科の歴史を知る会」の山本会長に厚く感謝の意を表します。

山科区長 福德久雄

**近年**、多くの自治体で、地域の声を反映した事業展開を求める動きが加速してきており、そのためには「市民参画」ということが欠かせなくなってきました。今回の写真集は、山科区役所区民部まちづくり推進課が事業の窓口となっていますが、活動主体は区役所に加え、区民・学生との協働グループが一つの組織を構成し、資料をまとめてあげています。つまり、企画段階から制作段階に至るまで、利用者が主体となって作り上げているという点にこのプロジェクトの大きな特色があります。このように、より多くの「利用する視点」「評価する視点」を盛り込むとともに、またテーマそのものに関心のある人たちが集まることで、当初の想像を超えた成果に仕上がっていると考えます。そして、プロジェクト全体としては、この写真集を発行することのみが目的ではなく、地域をきちんと見つめるという「プロセスそのもの」を重視し、この写真集以外に詳細な報告集と、写真のデジタルアーカイブもあわせて制作をしています。何分、地域連携活動の一環として行っていますので、不十分と思われる点、あるいは反省すべき点も多々あるかとは存じますが、使う人がそれぞれの見方で楽しんだけたら嬉しく思います。また、関係いただいた皆様方には心より感謝申し上げる次第です。

コーディネーター  
京都橘大学文化政策学部助教授 木下 達文



花山天文台見学



花山天文台見学



ワークショップ



ワークショップ

# Contents

## 目次

はじめに	1
目次	3
特記	4
巻頭ダイジェスト	
<b>大いなる町の発展とその変遷</b>	
1 発展し続ける山科	5
2 さまざまな町の変化	7
3 昔あった建物いろいろ	9
<b>山科盆地を歩いてみよう！</b>	
北ブロック (三条通以北)	11
東ブロック (三条道以南・外環状線以东・新幹線以北)	13
西ブロック (三条道以南・外環状線以西・新幹線以北)	15
東南ブロック (外環状線以东・新幹線以南)	17
西南ブロック (外環状線以西・新幹線以南)	19
<b>懐かしアルバム</b>	
～暮らし編～	
幼い頃の記憶	21
学校での記憶 1	23
2	25
若かりし日の記憶	27
ふれあいの記憶	29
～ 田畑・野山編 ～	31
～ 乗り物編 ～	33
年表	35
「パッチリ山科みつげ隊」に参加して	37
山科区地図	39
制作協力	40
あとがき	41
残したいもの	42

### ある雪の日の朝の光景

小山、旧東海道線の高架下。  
現在は名神高速道路が走るこの高架の上を  
当時は蒸気機関車が行き来した。  
雪の降りしきるある朝、  
煉瓦造りの高架トンネルの向こうに  
もんぺ姿で傘をさす二人。  
(昭和30年頃、小山西溝町)



27-001

### 特記

- この写真集は、宅地開発が進む以前の山科区のまちの風景や地域に伝わる伝統行事、日常生活などが写っている写真を広く区民の皆さんに募集し、集まった写真を中心にまとめたため、地域や題材等に偏りがあります。
- 紙面の関係上、提供していただいた全ての写真を掲載することができませんでした。
- 写真の内容については、取材を元に分かる限り記載しましたが、撮影の年代や場所等を推定で記入しているものもあります。
- 提供していただいた昔の写真には、管理上 00-000 と整理番号をつけました。
- まちの移り変わりが分かるように、昔の写真と現在の写真を対比させたものについては、📷・🏠 と表記しました。
- 写真をご提供くださった方やご協力いただいた方のお名前は、巻末に掲載させていただきました。
- 本書に掲載した写真については、無断転載を禁じます。

## 平成17年の山科（花山天文台からの遠望）

私たちの暮らしている現在の山科です。



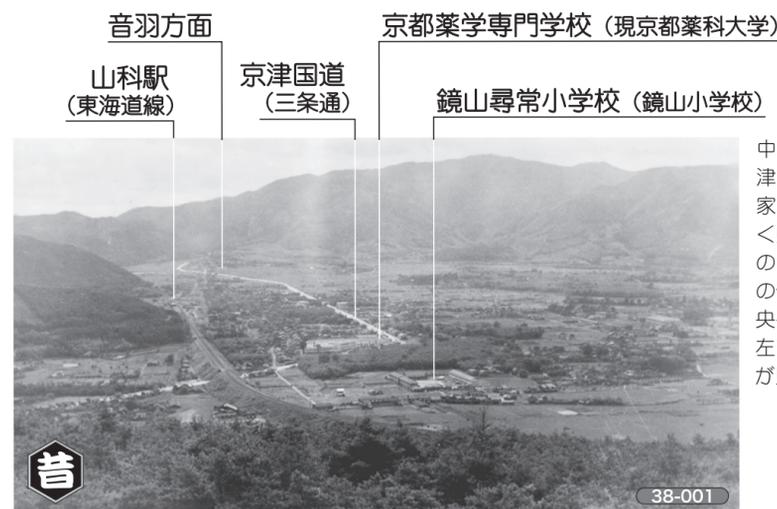
瞬く間に、野原が、田畑が、竹やぶが、変貌を遂げた山科発展の様子を新旧写真で綴る巻頭ダイジェスト！

# 大いなる町の発展とその変遷 1

発展し続ける山科

## 昭和10年頃の山科（花山天文台からの遠望）

70年前の山科です。現在と見比べてください。



中央に大きくカーブを描く京津国道（三条通）には、まだ人家が少ないようです。所々に黒く広がっているのは竹やぶ。この頃の山科には、まだたくさんの竹やぶが残っていました。中央手前には鏡山尋常小学校が、左には東海道線の線路と山科駅が見えます。



### 駅前再開発

左の写真は「駅前再開発事業」工事の様子です。この付近は公設市場（写真上）があった場所で、現在はRACTO山科に生まれ変わりました。



### 高層化する山科駅前

左の写真は、山科中央公園近くの団地屋上から北を望んだ現在の風景。中央の山際に見えるのは、JR山科駅前の再開発ビル群（RACTO山科）とその周辺の建物です。右手前には東本願寺山科別院の大屋根が見えます。



### 地下鉄東西線の開通

平成9年の地下鉄東西線開通に伴い地下にもぐった京阪京津線が、まだ路面電車の頃の写真です。京阪山科駅から三条京阪方面へ向かう電車が、御陵駅のホームに入ってくるところです。現在、周辺は公園になっています。

# 大いなる町の発展とその変遷 2

## 市民の生命の水、琵琶湖疏水

今も私たちの大切な水を運び続けている琵琶湖疏水。明治23年に第1疏水が完工して琵琶湖の水が京都に導かれました。上段左の写真は、洛東高校と安祥寺のすぐ南側を流れる昭和40年の疏水。上段右は、同時期に撮影された日ノ岡堤谷町付近の疏水に架かる日本最初の鉄筋コンクリート橋です。



昭和40年  
(御陵平林町)

28-010



昭和40年  
(日ノ岡堤谷町)

28-009

## 疏水のトンネル 開通で公園に

昭和44年頃まで、四ノ宮の山裾を迂回していた疏水(中段右)の川筋は埋め立てられ(中段左)、昭和45年に安朱と四ノ宮の境の山を貫通する諸羽(もろは)トンネルが完成しました(下段右)。周辺は、現在も公園として、広く区民に利用されています。下段左は平成17年春に撮影した一燈園付近の桜。春には疏水一帯が桜の名所となります。



平成17年  
(四ノ宮柳山町)



昭和43年  
(四ノ宮柳山町)



1-039



平成17年  
(西から東に見た一燈園の桜)



昭和45年  
(四ノ宮新開畑)

19-013

## 山科川の改修

山科川と旧安祥寺川の合流点付近。いずれも向かって右が山科川、左が旧安祥寺川。土手や川底の大規模な工事を行い、水害に強くなりました。



4-160



昭和45年頃  
(勸修寺平田町・勸修寺東金ヶ崎町)



平成17年  
(勸修寺公園を南から北へ望む)

4-160

4-160



昭和42年  
(上花山久保町)

29-033

## 交通の大動脈、 新幹線と国道1号



平成17年  
(上花山久保町)



上は開通間もない頃の国道1号と現在の風景を比較したものです。新幹線と平行し始める上花山久保町付近。左は現在の東海道新幹線(昭和39年開通)と国道1号(昭和42年開通)。



平成17年  
(上花山久保町)



平成17年  
(西野山桜ノ馬場町)

20-001

## 西伸する新十条通

右下の写真は、昭和39年頃の西野山交差点から東方を写したものです。現在その西側に、伏見区深草と結ぶため稲荷山のトンネル工事が進められています(右上)。



平成17年  
(西野山射庭ノ上町)



昭和39年頃  
(西野山射庭ノ上町)

## 京都薬学専門学校(現京都薬科大学)

下の3枚の写真のうち上段左は昭和13年の雪の日に撮られた京津国道沿いの正門。昭和7年に左京区から山科に移転しました。上段右は昭和12年の航空写真。下段は昭和10年のキャンパスです。



昭和13年  
(御陵中内町)

38-003



昭和12年  
(御陵中内町)

38-004



昭和10年  
(御陵中内町)

38-005



昭和9年  
(西野大手先町)

5-071

## 山階尋常高等小学校(現山階小学校)

伝統を感じる校門は明治13年からのもので、門柱をつなぐアーチの真ん中にガス灯がついています。この校門をくぐった児童は、約1万5千人にのぼります。

## 花山天文台

近代天文学の先駆けになった京都大学の花山天文台(昭和4年完成)、現在は太陽観測の施設として、大学生や高校生などアマチュア研究者の研究の場としても活躍中。



昭和初期  
(北花山大峰町)



38-006

## 広がる住宅地

昭和40年頃の京都刑務所全景(左)とその正門(右)。今では周辺の空き地が住宅で埋めつくされました。



昭和40年頃  
(東野井ノ上町)

6-010



昭和40年頃  
(東野井ノ上町)

28-011



平成17年  
(北花山大峰町)

28-011

# 大いなる町の発展とその変遷 3

## 昔あった建物いろいろ

公的な建物 A～E 民間の建物 1～7 MAP参照

### 鏡山小学校



明治、大正期には、山階と勤修の2校だった山科の小学校。昭和6年に山階小学校から分かれて鏡山小学校ができました。写真はまた新しい校舎です。(昭和11年頃、御陵血洗町)



### 銀行の支店

移転して新しく建てられた滋賀銀行山科支店。昭和8年から昭和37年まで、この場所にありました。現在はN T T西日本山科別館が建っています。(昭和33年、御陵大津畑町)



### 旧山科郵便局

京津国道（三条通）に面していた山科郵便局前での朝のラジオ体操風景です。山科郵便局は明治36年に四ノ宮に開設され、3回目の移動で、昭和13年から昭和29年まで、ここにありました。その後、昭和48年に山科団地の近くに移転しました。(昭和25年頃、竹鼻竹ノ街道町)



### 旧山科村役場

この建物は、明治年間から昭和26年まで山科の役場でした。役場は昭和26年東山区役所山科支所として竹鼻に移転、昭和47年柳辻の総合庁舎に移転しましたが、ここはその後も京都市の先先機関、老人いこいの家として利用されました。平成12年建物は解体され、現在は空地となっています。(昭和33年、西野大手先町)



### 旧山科保健所

写真右上、旧山科保健所の手前に東本願寺山科別院の石灯籠と昭和62年頃まであった桜並木が見えています。昭和32年から昭和47年まで、この地に山科保健所がありました。現在の山科総合福祉会館付近です。(昭和33年、西野大手先町)



### 鐘紡山科工場

大正10年から昭和45年まで、山科中央公園近くの一帯に大きな敷地をもった鐘紡の工場がありました。⑤は正門の写真です。現在は山科団地、安祥寺中学校、山科郵便局、山科消防署などが立ち並んでいます。(昭和42年頃、西野今屋敷町)



### クイズ1

この工場で昭和4年に働いていた女工さんの人数は？  
あ 24人  
い 381人  
う 1336人



### 旧山科警察署

昭和7年から昭和58年まで、この場所に山科警察署がありました。現在は竹鼻交番です。(昭和33年、竹鼻四丁野町)

役場、警察署、郵便局などの公的建物をはじめ、食堂、観光ホテル、映画館、百貨店など、あの場所、この場所にあった、今はなき活気あふれる民間の建物まで、かつての山科に点在した様々な建物を集めてみました。

### 山科駅前食堂



昭和34年のコメディ映画「危険旅行」で京津線の線路やこの食堂がロケに使われ話題になりました。中村登監督の作品で、高橋貞二や有馬稲子、トニー谷などが出演。写真は昭和28年、「まるきん食堂」の開店時のものです。昭和41年頃まで山科駅前にありました。(昭和28年、安朱中小路町)

### 山科の映画館

山科映画劇場は昭和2年、山科京極付近に開館しました。当時は鐘紡の女工さんもよく観に行っていたそうです。この建物は昭和50年頃まででありました。写真は東海道線電化を祝うため義士行列を出して、映画劇場前で記念撮影をしたものです。この義士行列は、現在の義士まつりのルーツになりました。(昭和31年、竹鼻竹ノ街道町)



### 山科観光ホテル

昭和43年頃から昭和45年まで、この場所に山科観光ホテルがありました。その後、昭和55年に普羽病院となり、現在に至っています。(昭和44年、音羽珍事町)



### 山科の桐材店

山科には桐を扱った大きな間屋が3軒あり、桐材を積んだ風景がよく見られました。(年代不明、東野門口町)

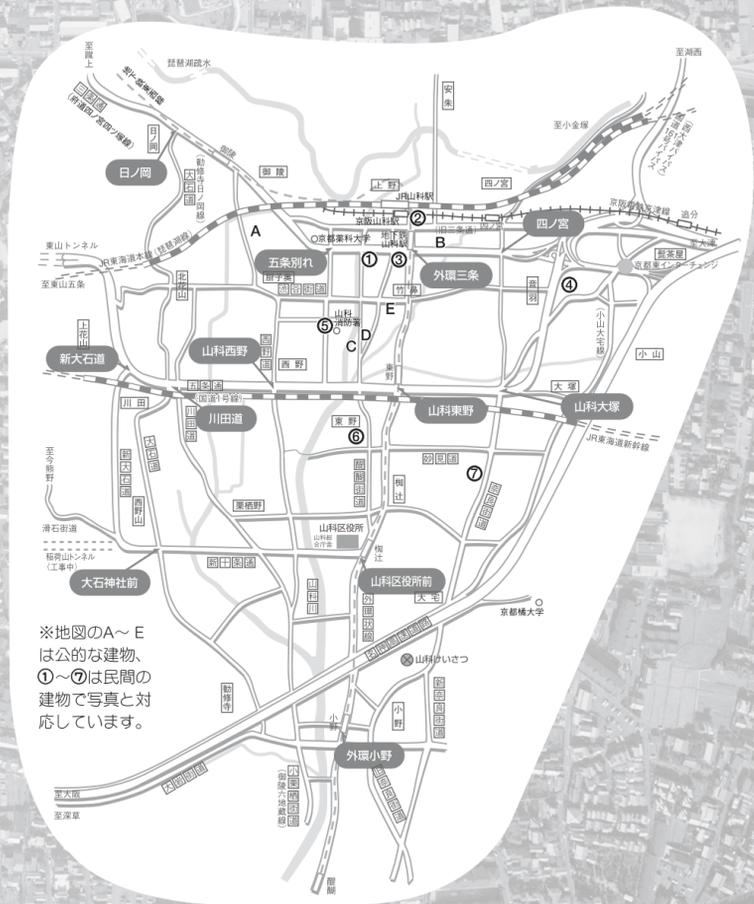
### クイズ2

写真の桐材で何を作ったのでしょうか？



### 山科百貨店

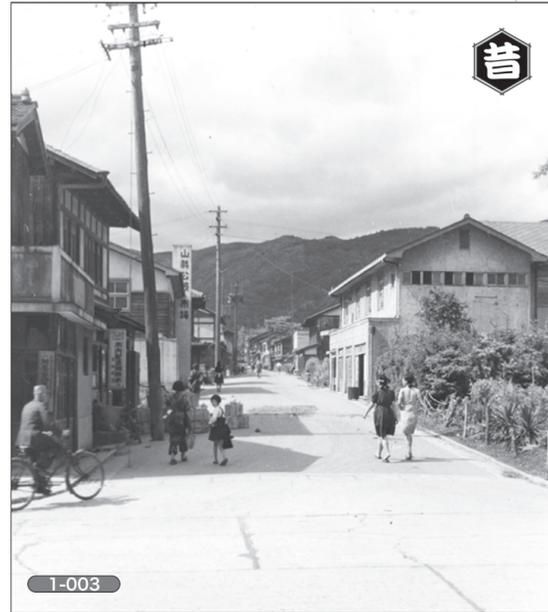
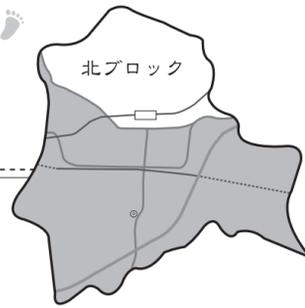
昭和38年頃から昭和50年頃まで、ここに山科百貨店がありました。(昭和41年、大塚西浦町)



※地図のA～Eは公的な建物、①～⑦は民間の建物で写真と対応しています。

# 山科盆地を歩いてみよう!

北ブロック 三条通以北



昔

1-003

## 山科駅前通 (三条通から北を望む)

◀京津国道(三条通)から山科駅へと延びる駅前通。左側に公設市場がありました。現在はRACTO山科に替わっています。「これは懐かしいですね。ちょうどこの頃は、左側の角の家に住んでました(井上さん)。」(昭和25年頃、竹鼻竹ノ街道町)



今

## 京津国道 (三条通、西から東を望む)

▶右の写真は、上の写真の駅前交差点から少し東へ移動した位置から、京津国道(三条通)の東方を写したものです。道幅は広く、歩道も学生が広がって歩けるほど立派です。現在は立ち並ぶ建物のため、東の山がわずかに見えません。(昭和25年頃、竹鼻竹ノ街道町)



今



昔

1-006

## エリアコラム 街道を歩く 東海道

東海道は、江戸と京を結ぶ古くからの街道として、日本橋から駿河、三河、大津などを経て京の三条大橋へとつながる道筋です。各地からの旅人や行商人などに利用されてきました。東方からの旅人にとっては、三条大橋へ至るゴール間近の集落がここ山科でした。



昔

35-002

▲六地藏巡りの寺の一つ徳林庵前、南側の商店(昭和30年頃、四ノ宮泉水町)。犬連れで下駄に前掛け姿の女性をはじめ、奥のかつぼう着姿の女性、商店にはミルクやコーラの看板、アイスの冷蔵庫などが見られ昭和中期を物語っています。

▲1739年頃、木食正神が東海道日ノ岡峠の改修工事の際、旅人の難儀を救うため、給水設備を作りました。現在は飲み水には適しません。写真は昭和45年頃、日ノ岡坂路町。



電の水  
車石

▶京津国道が開通するまではこの東海道(旧三条通)がメインストリートでした。牛車の運行を容易にするため、車輪がスムーズにまわる溝を掘った「車石」が使われていました。現在洛東高校にある車石▲

4-004



昔

## 疏水沿い (牛尾山方面、東南を望む)

▶右の写真は、御陵付近の疏水が、大きく南へ突き出たカーブの辺りから南東方面を写しています。山科では昭和30年頃から宅地化が始まり、すでにこの頃には民家が密集しています。同場所は現在、木々が生い茂り、建物が邪魔をして撮ることができず、四ノ宮の疏水沿いから東南方面を撮っています。(昭和41年、御陵 天徳町から)



昔

1-012



昔

19-017



昔

## 疏水諸羽ダム (現疏水公園)

◀四ノ宮船溜から安朱間の第1疏水は、諸羽トンネルが開通する昭和45年まで、山に沿って流れていました。現在のようにフェンスはなく、水泳を楽しむ姿もよく見られました。明治時代に遡ると、船運や遊船で脚光を浴びていました。トンネルの開通と同時に埋め立てられ、現在疏水公園として区民の憩いの場となっています。(昭和40年頃、四ノ宮柳山町)



昔

30-004



今

## 御陵黒岩付近から (南東を望む)

▲御陵の疏水沿いを北西方面へ続く山へ分け入った途中からの見晴らしと思われます。背景に音羽山、左に安朱の山々が見え、疏水はその裾をゆったりと流れています。同場所を探して山道を登りましたが、疏水はよく見えず、同方向を写したところ、昔の写真は右手前に見えている山から撮ったようです。山科の都会化の様子が伺えます。(明治40年頃、御陵黒岩)

## エリアコラム 由緒ある歴史 天智天皇陵

天智天皇は、645年に大化の改新で中臣鎌足とともに蘇我氏を滅ぼした中大兄皇子その人です。大津に都を遷した後、山科の地へ鹿の角や葉草などを求める「葉集」に訪れたといわれます。671年に天皇はなくなり、壬申の乱で御陵造営は一時中断となりましたが、700年頃に天智天皇陵が完成しました。写真は昭和45年頃、御陵上御野町。



4-010

## エリアコラム 有名なお寺や神社 毘沙門堂

毘沙門天を本尊とする天台宗の門跡寺院。「毘沙門さん」と親しまれ、お正月の初詣に始まり、節分の豆まき、立派な枝垂桜を愛でるお花見、境内が錦に染まるもみじ狩りと、1年を通して区民の生活にうおいを与えてくれるお寺です。書院のふすま絵も見ものです。写真は昭和45年頃、安朱稲荷山町。



4-021

# 山科盆地を歩いてみよう!

東ブロック 三条通以南・外環状線以东・新幹線以北



昔



29-029

## 音羽山山頂から (山科盆地西を望む)

音羽山山頂付近から西方に広がる山科盆地です。右に「く」の字型に見えるのは昭和8年に開通した京津国道(三条通)。中央の森は音羽の竹やぶ。右下の横方向にのぞく黒っぽい直線状の土手は、旧東海道線の線路跡で、現在の名神高速道路です。(昭和11年、小山長尾)



▲下の写真を撮りに行った登頂記念。

## エリアコラム 由緒ある歴史

### 大蛇伝説

牛尾山に宿る山の神は大蛇とされ、麓の人々は山の神を祀る行事を古くから受け継いできました。フラを大蛇の形に編み、白石神社の宮司が祈禱を捧げ、小山中島町にある2本の杉の木に掛けて祀る「二九(にのこう)」が、今も小山の里の人たちによって、毎年2月9日に行われています。



27-008

▲平成8年。現在右の木は途中で切られています。



▲平成18年。「二九」当日、架け替えの様子。

## 国道1号(京都市インター手前)から北を望む

奈良街道と国道1号の交差点から北方を写したものの。前方右へ延びる道は名神高速道路のインターチェンジです。中央左は地下横断歩道の入口。手前中央から左へ延びる脇道が奈良街道です。現在は建物が立ち並び、山がほとんど見えません。(昭和39年、音羽前田町)



今



昔

1-024



昔

## 音羽山麓 (小山地域から 東南を望む)

牛尾登山口へと続く道。牛尾山は霊山としても有名で、昔から参拝者が訪れ、この集落も古くからありました。右側の段差は埋め立てられました。山の重なり具合で現在と比較できます。(昭和45年頃、小山小川町)

4-197

## 小山の釣堀(名神高速道路東側)

農業用の溜め池。前方の土手は旧東海道線の線路跡で現在の名神高速道路です。池は長期間釣り堀でしたが近年埋め立てられました。(昭和30年頃、小山姫子町)



27-007



今

## ゴルフ道(山科トップセンター前から南方を望む)

現トップセンター前のゴルフ道から南を望んでいます。道の両側に生い茂る竹やぶの辺りが現山科川になります。着物姿の2人は姉と弟。お父さんが向けるカメラになんとも可愛いポーズ! 今の写真で真似してみましたが…(昭和19年頃、音羽野田町)



1-017

昔



今

1-036



昔



今



今

## エリアコラム 有名なお寺や神社

### 牛尾観音 法厳寺



清水寺の奥の院。本山修験宗の寺院。奈良時代に修験の場として開かれました。平安時代に牛の疫病が大流行し、見かねた僧が法厳寺で祈禱を捧げると騒ぎは治まったといわれています。写真は平成17年の紅葉の頃です。

### ゴルフ道(筋違橋から北を望む)

ゴルフ道の四ノ宮川に架かる筋違橋。女性のもんぺ姿が懐かしいですね。道の先の右手に見える高い塙の屋敷は大野木邸、現在の山科洛東迎賓館です。(昭和30年代、竹鼻堂ノ前町)

## エリアコラム 街道を歩く 奈良街道 と東海道の分岐点

大津から宇治方面へ向かう奈良街道と、京都方面へ向かう京街道(東海道)との分岐点がこの鬚茶屋敷町。撮影当時でさえ、一番古い道標は半分以上土に埋もれています。現在はアスファルトになっていますが、埋もれた道標は同じように建っています。



4-044

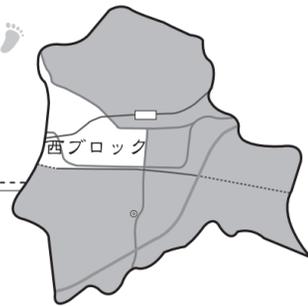
昔の写真は昭和45年頃。大きい道標「みぎは京みちひざりは伏見みち」、小さい道標「蓮如上人 御塚道」、相当古そう。



今

# 山科盆地を歩いてみよう!

西ブロック 三条通以南・外環状線以西・新幹線以北



昔

25-002

## 竹鼻上空 (東から西を望む)

◀昭和10年の山科が一望できる航空写真。東山連峰の右方には花山天文台があります。中央に整然と立ち並びのは鐘紡の工場で、その下の小さい森は、現在の山科中央公園土塁跡です。手前左に山階小学校、手前右に東本願寺山科別院が見えます。現在の写真は、外環状線沿いのマンション屋上から撮影しました。手前は四ノ宮川です。(昭和10年、西野一帯)



今



今

## 鐘紡工場内 (現安祥寺中学校グラウンド)

▶右の写真は、安祥寺川東側の撮影者宅の2階の窓から西方を撮影したものです。安祥寺川を挟んで真向かいに鐘紡の工場が見えました。現在は安祥寺中学校のグラウンドで、その向こうには山科団地が見えます。左の森は山科中央公園。(昭和34年、西野今屋敷町)



昔

2-058

## 由緒ある歴史

### 蓮如上人と山科本願寺の土塁



4-141

土塁跡 ▲昭和45年頃、西野山階町



4-146

堀跡 ▲昭和45年頃、西野山階町

## 山科中央公園土塁跡

◀当時の土塁の面影を現在にもよく伝えているのが、山科中央公園の土塁跡。西野阿波沢町にあります。

室町時代に築かれた城郭都市「山科本願寺内町」の土塁の一部が、寺内町遺跡として、2002年に国史跡に指定されました。

▶右は土塁を築いた蓮如上人の銅像です。金属を必要とした戦時中に供出され、現在は台座のみとなっています。

◀左下2つは奥田邸周囲に残る土塁と堀。



2-024

蓮如上人銅像 ▲昭和17年頃、西野大手先町

## エリアコラム 街道を歩く 渋谷街道

▶昭和42年、渋谷街道の元慶寺参道前(北花山中道町)から東方を撮影。山越えて京の五条に通じる古くからの街道です。三叉路を右へ延びるのは川田道、道の右側の商店は今も同じように並び、左にはスーパーがあります。



今



昔

29-035



昔

29-018

## 山階小学校運動場 (東南を望む)

▲山階尋常高等小学校(現山階小学校)の運動会の様子を校舎の窓から撮影したものです。観客席は、室町時代からあった山科本願寺の土塁跡で、現在は体育館が建ててしまいましたが、手前側にその名残を見ることができます。(昭和8年、西野大手先町)



今

## エリアコラム 有名なお寺や神社 元慶寺

花山法皇ゆかりの寺。西国三十三カ所番外札所として知られ、平安時代には、かなりの寺観を誇っていたようです。六歌仙の一人僧正遍昭の発願によって創建されました。写真は昭和45年頃、北花山河原町。



4-131



昔

2-027

## 東本願寺山科別院南門前の桜並木

▶山科別院南門前の現存する石橋から南を撮影。切られる寸前まで美しい巨木だった桜並木もこの頃はまだ若木です。今の写真では少年役に挑戦!? (昭和33年、西野大手先町)



昔

1-045

## 京津国道 (三条通、九条山から日ノ岡方面)

▲東山ドライブウェイから山科方面を撮影。広い道は京津国道(三条通)、右側の民家の間の細い道は旧東海道です。今は樹木が成長し、夏場は道路と民家がほとんど見えません。冬の落葉時に撮影しました。(昭和34年、厨子奥花鳥町)



今



今

# 山科盆地を歩いてみよう!

東南ブロック 外環状線以东・新幹線以南



4-153

## 名神高速道路 大宅の大カーブ (東から西南を望む)

▲名神高速道路ができる以前は、ここに旧東海道線があり、蒸気機関車が煙を吐いて走っていました。撮影された頃はまだ防音壁がなく、東山連峰を見渡しながらドライブが楽しめたことでしょう。

(昭和45年頃、大宅御所山町)



## エリアコラム 由緒ある歴史 一里塚の榎

▶昭和45年頃撮影した一里塚の榎です。36町(約4km)を1里として、1里ごとに塚を築き、その上に榎か松の木を植えました。徳川家康がこれを整備させ、東海道などに一里塚を完成させました。今日では、ほとんどの一里塚は消滅し、京都市内でもここ大宅に残るのみです。奈良街道の大宅甲ノ辻町、名神高速道路の北側にあります。



4-065



## エリアコラム 街道を歩く 奈良街道

▼昭和45年頃の大宅古海道町周辺。旧街道らしい民家や土蔵が残る奈良街道。この頃は木の電柱が立ち並び、道の両側の水路には溝ぶたがありません。現在は交通量も多く、カーブした辺りの左側に京阪バスの山科営業所があります。現在も旧街道らしい古民家がところどころに見られます。



4-069



6-007



## カヤの水沿いの道 (東から西を望む)

▲奈良街道から外環状線に向けて北西へと延びる道。男の子の立つ左には小野小町と深草少将の「百夜通い」の伝説ゆかりのカヤの木があります。度重なる災害や開発を逃れた、現存わずか2本のうちの1本です。(昭和33年頃、小野葛籠尻町)

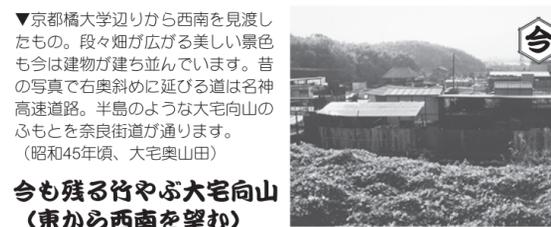


4-177



## 大宅小学校東側の道 (南から北を望む)

▲今はアスファルトのこの通学路もかつては土の道。広がる田畑や竹やぶは、子ども達の格好の遊び場でした。(昭和45年頃、大宅古海道町)



## 今も残る竹やぶ大宅向山 (東から西南を望む)



4-152

## エリアコラム 有名なお寺や神社

### 岩屋神社



4-060

陽岩、陰岩がご神体として祭られ、古代の石座(いわくら)信仰の形が残されている歴史ある神社です。祭神は天忍穗耳命(あめのおしほみみのみこと)など三神で、その氏子区域は日ノ岡、御陵、厨子奥、大塚、大宅、柳辻と、広範囲に渡っています。写真は昭和45年頃、大宅中小路町。

### 随心院

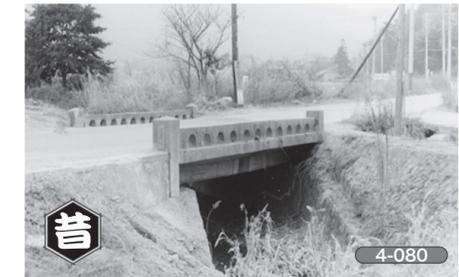


4-071

小野小町ゆかりの寺として知られています。牛尾山の呼び名の由来に深く関わる、仁海僧正の開基による真言宗のお寺で、応仁の乱で焼亡後、桃山時代に再建された門跡寺院です。3月には薄紅梅が見頃となり、可憐な「はねず踊り」が催されます。写真は昭和45年頃、小野御霊町。

## 小野の化粧橋 (北西から東南、醍醐方面を望む)

▼道の向こう側、天田川の左側一帯は随心院の境内。橋の右側は現状見区。随心院にある小野小町ゆかりの化粧井戸にちなんで名付けられました。(昭和45年頃、小野御霊町)



4-080



# 山科盆地を歩いてみよう!

西南ブロック 外環状線以西・新幹線以南



29-054

## 清水焼団地予定地 (東を望む)

▲清水焼団地建設前の風景です。この辺りは高台になっていて山科が一望できます。中央左寄りに見える直線は東海道新幹線。ドラム缶の向こう辺りの町並みは、現山階南小学校や山科中学校の校区です。空気が澄んでいるのか山の稜線がくっきりと見えます。(昭和38年、川田清水焼団地町)

## エリアコラム 滑石街道

▼西野山ヶ谷町の滑石街道から東方を撮影。上は昭和20年頃の山科盆地を撮影した貴重な写真です。民家はまだまだ少なく、田んぼが一面に広がる様子が見られます。中央の大きな色の濃い森は、現清水焼団地南辺り、その奥の方に点在するのは、山科本願寺の土塁跡です。



13-001



12-029

## 山科のモデル団地の第1号 (栗栖野中臣町)

▲山科のモデル団地の第1号。入居競争倍率も高かったそうです。ホースでたらに水を溜め、洗濯物を洗濯板でしごく女性の姿が懐かしいですね。(昭和31年、栗栖野中臣町)



23-003

## 柳辻

(外環状線東側から西を望む)

▲左端の建物は平成10年頃まであった東英家具。現在は、柳辻病院の大きな建物が建ち、新十条通が西へ向かって延びています。現区役所の建物は、画面の右側になります。(昭和39年頃、柳辻草海道町)



## 西野山中臣町上空 (西から東を望む)

▶右上に並んで見えるのは勸修寺第1市営住宅。中央右の森は折上神社です。手前の旧安祥寺川の東側には明治41年建設の福田金属の工場敷地が広がっています。水車を設置し、その動力で金粉(真鍮粉等)を製造していました。真鍮粉は仏具などの伝統産業に使用されました。(昭和32年頃、西野山中臣町)



41-003

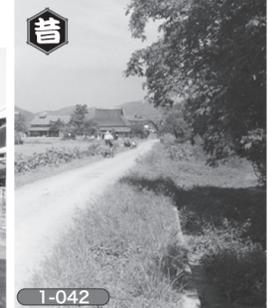


## 勸修寺 旧安祥寺川沿い (西から東北を望む)



4-156

▲畑の間に旧安祥寺川が流れ、右に勸修寺小学校の一部と、正面に坂上田村麻呂墓のある森が見えます。現在、河川は拡張整備され、両岸は遊歩道として、草花や野鳥を愛でながらウォーキングを楽しむ区民の憩いの場となっています。(昭和45年頃、勸修寺東栗栖野町)



1-042

## オチリ池西畔の道 (南から北を望む)

▲この地域は地下水がところどころ湧き出ていました。右の写真の道路右側、細長い沼地のような池は山科本願寺の堀跡です。左側は田畑が広がっていました。現在は埋め立てられ、住宅が建ち並んでいます。1532年山科本願寺は、ここから攻め込まれ、焼亡しました。(昭和30年頃、西野左義長町)

## エリアコラム なか とみ い せき 由緒ある歴史 中臣遺跡

中臣遺跡は、後期旧石器時代から室町時代にかけての大規模な複合遺跡です。昭和44年に洛東高校の生徒によって発見され、その後平成に入っても発掘調査は続けられていました。写真は平成12年、発掘現場となった勸修寺第1市営住宅の改築建設に伴う発掘調査のときのものです。



12-036



12-034

# 懐かしアルバム

暮らし編

## 幼い頃の記憶

優しく抱かれたあの日…。地域の行事に参加した日、日が暮れるまで夢中で遊んだあの頃、楽しいひとときをくれた遊びや遊具。行事の移り変わりを目に見える何かで伝えたい。



11-001

お気に入りのおもちゃを  
抱えて遊んだあの頃…



31-014

### お宮参り

縁側で記念撮影。健康に育ってほしいという願いは、今も昔も変わりません。(昭和10年頃、安朱北屋敷町)



14-001



31-017

### お稚児さん

上は西宗寺(さいしゅうじ)の梵鐘完成を祝う法要の稚児行列です。(昭和32年、西野広見町)

左は諸羽神社の秋祭りのお稚児さん。毘沙門通と旧三条通角の林さん宅の庭で。

(昭和30年頃、安朱北屋敷町)



31-016

### 稚児侍

同じく旧三条通の林さん宅の玄関先で撮影。烏帽子に手甲、具足に立派な鎧兜(よろいかぶと)と合戦に出かける様相さながらの2人。(昭和30年頃、安朱北屋敷町)



地域の行事に参加したあの日…



35-005

### 護摩法要に参列

十禅寺の護摩法要に参列した山伏姿の子ども達。「行者講の山伏の後を、十禅寺から竹鼻新道、京津国道、四ノ宮と行列した息子も56歳になりました(小山さん)。(昭和25年頃、四ノ宮泉水町)



2-036

### 地藏盆

たくさんの提灯が飾られ、大勢の子どもが3時のおやつをもらいにテントに集まっています。東本願寺山科別院境内にて(昭和33年、竹鼻サイカシ町)



### 木のすべり台

コンクリートや鉄製のすべり台が登場するのは、もう少しあと。音羽小学校での休み時間の1コマです。(昭和30年頃、音羽森廻り町)

日が暮れるまで、夢中で遊んだあの頃…



36-009

### ゴム跳び

路地で遊んでいます。膝から腰、肩へとどんどん高くしていくゴム跳びです。この跳び方は「まる跳び」といっていました。(昭和60年頃、東野八反畑町)



1-037

### 疏水諸羽ダム

疏水べりで囲らする家族連れの姿が多く見られます。まだ諸羽トンネルができる以前の疏水公園です。夏にはここで泳げました。(昭和40年頃、四ノ宮柳山町付近)



2-033

### 電車遊び

ガタンゴトン。畳の部屋で電車遊びをしています。(昭和33年、西野今屋敷町)

## 懐かしアルバム～暮らし編～



19-010

### 木のブランコ

山科駅の南側にあった児童公園。当時は、まだ木製の支柱でした。「この場所がよく弟と一緒に遊んでいました(山本さん)。(昭和31年頃、安朱北屋敷町)



34-001

### 虫取り

虫や蝶を追いかけたり、ザリガニを取ったり、自然の中での遊びを通して、いろいろ大切なことを学んでいました。(昭和45年頃、西野広見町)



飯ころ炊さん

### キャンプ

少年補導委員会学生部主催で行われた牛尾山教育キャンプです。夏休みや日曜日は飯ころ炊さんやバーベキューに訪れる人で賑わいました。(昭和40年頃、西野東山)



40-001

### 電車ごっこ

汚れてもいいようにスモックを着て、みんなで電車ごっこ。其校幼稚園の運動場で遊んでいます。(昭和51年頃、御陵田山町)



43-001



36-012

### お誕生日会

お誕生日には自宅にお友達を呼んで、ケーキを食べたり、楽しくおしゃべり! 昭和の茶の間の雰囲気がよく伝わってきます。(昭和60年頃、東野八反畑町)

# 学校での記憶1 明治・大正の卒業記念写真と昭和の学級写真

山科で最初の小学校（東野校）は男子178名、女子77名。各戸の負担と授業料で運営しましたから、子守りや経済的理由などで就学できない児童が多数でした。その後、尋常小学校が義務教育となり、高等小学校も併置されました。戦時色が一段と濃くなった昭和16年、国民学校と改称され、内容も国民科・体錬科などと大きく変わりました。戦後、小学校と改称され、新制中学3年までが義務教育となり、山科中学が開校されました。



29-001

## 当時は4年制でした 明治27年度 山階尋常小学校の卒業記念

尋常小学校も4年生まででした。児童は餅（かすり）の着物や羽織袴（はおりはかま）姿で、先生方も和服がほとんどです。先生方は後ろに並び、最前列の子ども達はムシロのような敷物に正座しています。（西野大手先町）

MEMO	
明治5年	住民が主体となって勤修校、東野校が開校される それぞれ後に勤修小学校、山階小学校となる
明治20年	尋常小学校（4年制）、高等小学校（4年制）設立
明治31年	尋常高等小学校の設立 尋常科（4年制）、高等科（2年制）
昭和16年	小学校が国民学校になる
昭和22年	国民学校が小学校になる 小中9年間の義務教育実施、山科中学校開校

## この年から6年制になりました！

### 明治31年度 山階尋常高等小学校 第1回卒業記念

明治31年、尋常高等小学校が誕生。それまで4年制だった小学校に高等科ができ、6年制の原型となりました。後ろの木造3階建築は講堂。大正4年3月まで健在でした。（西野大手先町）



29-008

## 流行していたエプロン！

### 昭和7年度 山階尋常高等小学校入学式

50名で1クラス、梅・桃・桜・藤・松の5組編成でした。手には日の丸を持っています。右の拡大写真に写っているエプロンは、晴れ着にもなりましたが、実用的で手縫いができ、当時、流行していました。（西野大手先町）



29-007

## 先生は2列目に！

### 大正14年度 山階尋常高等小学校 尋常科の卒業記念

就学率も高くなり、山階校の卒業生もこんなに増えました。木造校舎の前で撮影。大正時代に入ると先生方は2列目で椅子に座るようになっています。（西野大手先町）



2-002



## ただいま勉強中…

### 昭和17年度 山階国民学校 授業中の風景

いっせいに本読み。約50人の児童が木の机をくっつけて、姿勢を正して勉強しています。後ろに立っているのが先生。男子は全員丸坊主でした。当時、上級学年は男女別の組でした。厳しい授業の様子が伝わってきます。（西野大手先町）



21-007



21-023

## 木造校舎の前で！

### 昭和17年度 山階国民学校卒業記念

### 昭和30年代 山階小学校クラス写真→

左の写真と比べると、数十年のことですが、組の編成や服装、髪型もずいぶん違い、時代の流れを感じます。（西野大手先町）

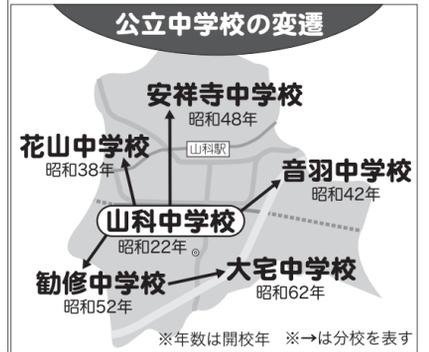


14-002

## 青空卒業式！ 昭和25年度 山科中学校第4回卒業記念



体育館ができる以前の広い運動場での卒業式。この第4回卒業生は433名でした。左のムクノキは、現在樹齢150年以上といわれ、平成13年「区民の誇りの木」に指定されました。（東野八反畑町）



## 学校での記憶2

### 行事と授業風景

主に昭和初期の学校生活です。行事や児童の活動内容も今とはずいぶん違います。

### 世紀の瞬間 日食観察

京都では、太陽の72パーセントが地球の影に隠れる日食になるというこの日、山階尋常高等小学校の児童が校庭に出て、日食が始まるのを待っているところです。午後4時頃に暗くなったそうです。  
(昭和11年6月19日、西野大手先町)



29-065

### 「強行遠足」だって！

山階尋常高等小学校児童の牛尾登山です。勸修尋常高等小学校は桃山御陵に行きました。ともに「強行遠足」と呼ばれていたそうです。(昭和10年、小山中島町)



29-034

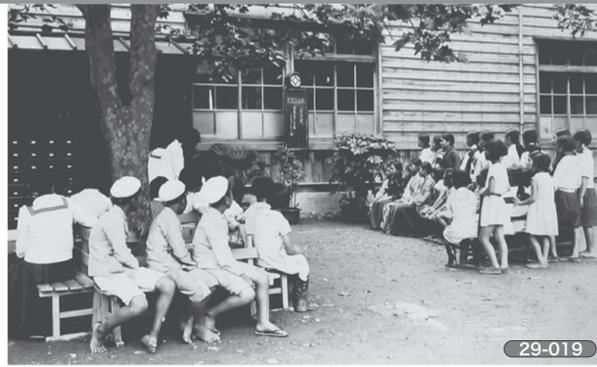
### 放課後や家庭での1コマ

29-047



天智天皇陵前の京津国道（三条通）を掃除する山階尋常高等小学校の児童。(昭和9年、御陵上御廟町)

山階尋常高等小学校の児童の校外奉仕活動。竹ぼうきで東海道（旧三条道）を清掃中。(昭和9年、安北北屋敷町)



29-019

### 生放送ラジオ鑑賞

山階尋常高等小学校の児童がJOBK（大阪放送局）に出演し、ラジオから流れる友だちの声を聞いています。中央の時計のように見える木の箱がラジオ。(昭和9年、西野大手先町)

5-012



### 学芸会の合唱？

戦前は右書きでしたから、合唱隊の文字も右書きになっています。「山階尋常高等小学校の学芸会だったと思います。写っているのは姉ですが、私のときには、貰ってもらった、紺のガーター編みの服を着て壇上に立ったことを覚えています（野崎さん）。」(昭和6年、西野大手先町)



### 9人だけ？

通学区対抗野球大会での選手達。70年前のユニホームのマークは山のデザイン？  
(昭和6年、西野大手先町)



29-015

### 働いたよ！

食糧難のため校庭にさつま芋を植えたり、竹やぶの開墾もしました。男子児童が鍬（くわ）を手にして働いている様子です。  
(昭和17年、西野大手先町)



21-009

### 清掃風景

2-021



家での衛生掃除。畳を上げた床を掃除しています。  
(昭和30年頃、西野今屋敷町)



29-037

## 懐かしアルバム～暮らし編～



42-001

### どっちも負けるな！

勸修尋常高等小学校児童の綱引き。右の大きな建物は勸修寺の書院。手前は平安時代からあるといわれる氷室池です。運と睡蓮の名所としても知られています。写真裏面には「山階宮武彦王殿下（中略）氷室池二舟ノ上ヨリ御撮影」と記されています。(明治41年、勸修寺仁王堂町)



29-036

### 校下一周リレー！

山階尋常高等小学校の児童が校区内を走りました。先導車の後ろをのぞき込む女子やかっぱ着姿の女性が見えます。左の写真は、道幅から旧三条通、右の写真は、自動車（ダットサン？）と自転車の向うに竹やぶが見えることから、京津国道（三条通）のようです。(昭和12年、竹鼻竹ノ街道町・御陵大津畑町)



29-048



29-046

### ドッジボール大会

山階尋常高等小学校の運動場にて、通学区対抗女子ドッジボール大会が行われました。当時の女子の体操服は、キュロットでした。  
(昭和8年、西野大手先町)



21-001

### がんばれ！「訪問競争」

右端の机にヤカンと茶碗が見えます。山科中学の生徒が2月に鏡山・音羽・醍醐・勸修の各小学校を周りました。走っても歩いてもよく、「訪問競争」と呼んでいました。  
(昭和23年頃、鏡山小学校付近)



21-011

### てっぺんまで登れるかな

登りほうの支柱は、どうやら木造のようです。みんな必死でてっぺん目指して頑張っています。教えている先生も必死!?です。  
(昭和17年、西野大手先町)



21-013

### 国民学校



### 前転、きれいに回れ！

校庭にマットや跳び箱を置いて、モンペ、ハチマキ姿で練習しています。後ろには「ろくほく」が見えます。手や足を掛けてぶら下がったり、懸垂をしました。  
(昭和17年、西野大手先町)



21-019

### 逆上がりと倒立、やります！

ここでは全員同じハチマキをしています。逆上がりはかなりの高さをこなし、倒立は砂場で挑戦しています。  
(昭和17年、西野大手先町)



21-017

### 向かい合って、「えいっ!!」

2人1組で木銃の練習をしています。  
(昭和17年、西野大手先町)

# 若かりし日の記憶

戦後60年を迎えた今、かつて山科に住んでいた人々が体験した記憶すべき写真。女子は良妻賢母をめざして、お茶やお花、裁縫のお稽古に勤しみ、男子も早くから一人前になるよう期待されていた時代でした。



5-078

## 山階補修学校女子部 (3年制) 卒業記念

現在の高校2年生に当たります。当時は、高等科を卒業すると、花嫁修業としてさまざまな手仕事を習得するために、学校に通いました。山階補修学校は、昭和11年に山階実務女学校になりました。(昭和9年、西野大手先町)



5-070

## 山階実務女学校 (3年制) 卒業記念

左上の写真と比べると、7年の違いですが、着物に袴(はかま)姿から、セーラー服とブレザーになりました。履物も下駄から革靴へと変化しています。(昭和16年、西野大手先町)



15-005

## お裁縫の稽古

机の上には、握りばさみや竹の物差しが置かれています。「今の塾のようで、近所の娘さんたちが、夕方から夜8時頃まで、裁縫を習いに通っていました(薬師寺さん)。(昭和10年頃、東野八反畑町)

## 軍事教練?

軍隊か中学校の軍事教練中か定かではありませんが、真剣な表情が窺えます。戦時中の四ノ宮周辺は、まだまだ野原が広がっていました。(昭和10年代後半、四ノ宮柳山町)



5-042



5-004

## お茶の稽古

女子生徒が半円を描いて座り、茶道の作法を習っています。中央にあるのが茶釜、その手前には茶筒や茶筌などが見えています。(昭和10年頃、西野大手先町)

## お花の稽古

女子生徒が竹製の花筒にめいめいの思いで花を生けています。中央でお手本を見せているのは、ご住職のようです。(昭和17年頃、西野大手先町)



21-025

## 京都薬学専門学校 門前

京都薬学専門学校の学生さん達。京津国道(三条通)に面した石造りの校門前にて。戦時中は国民服が支給されました。(昭和18年、御陵中内町)



38-009



31-028

## 大会優勝記念



5-006

青年団野球部の優勝を記念して。着ているユニホームのロゴは東野の「H」。当時としては珍しく、スパイクを履いている人もいます。(昭和初期、東野門口町)

## 疏水通路橋

安祥寺川と疏水が交差する東側(疏水上流側)に架かる通路橋から飛び込む青年。当時の疏水にはまだ柵がなく、地元の子どもの格好の水泳場でした。(昭和6年、安朱中溝町)

## 水泳部? 疏水のふちにて

こちらは京都薬学専門学校の学生さん達。つなぎの水着姿の中に1人、ふんどし姿の青年もいます。(昭和8年頃、場所不明)



38-008

## 研究室での実験風景

白衣をまとう京都薬学専門学校の学生さん達です。ガラス製の装置を使って、実験中のようです。(昭和8年頃、御陵中内町)



38-007



5-030

## 祭り神輿衆

三ノ宮神社のお祭りの日のひととき。若者に埋もれて神輿の屋根の部分と担ぎ棒の部分がかすかに見えています。背後の樹木は「京都市の巨樹名木」に掲載されている三ノ宮神社のご神木。(時期不明、東野八反畑町)

## 消防分団

東野公会堂前で、記念写真を撮る山科南消防組の若い衆。左端には放水ノズルを持ったハチマキの青年、中央には前数人が髯口、後ろ数人は「宇東野」と書かれた高張り提灯を持っています。右には脚絆を巻いた青年や後ろにハシゴも見えています。(昭和初期、東野門口町)



15-008



18-005

## 衣装のお披露目

折り鶴柄の着物や菊模様の黒留袖、笹にボタンの色打ち掛けなど、座敷いっぱいに広げられた晴れ着一式。(昭和12年頃、御陵御願野町)

## 嫁入り道具

着物に虫がつきにくいといわれる桐のタンス、螺鈿(らでん)細工の鏡台、漆(うるし)の椀に真綿(まわた)の布団とそれは豪華!(昭和12年頃、御陵御願野町)



18-006

## ふれあいの記憶

地域社会でのできごとや、職場での催し、家族団らんなど、私たちの暮らしには、その人それぞれに膨大な記憶が蓄積されてゆきます。昔の写真から、当時の人々が生きた証を垣間見て、時代の移り変わりを実感してください。



26-021



26-017



26-019

## 行職事場



41-001



41-002



6-011

## 歓迎会、クリスマスパーティー、運動会、記念行事 e.t.c.

上列は鐘紡の行事で、左から新入社員歓迎会の会食（昭和43年）、クリスマスパーティーでの紅白歌合戦（昭和42年）、運動会での綱引き（昭和42年、いずれも西野様子見町）。下左は福田金属の行事で、運動会（昭和39年）、工場見学会でぬいぐるみと遊ぶ地元の子も達（昭和60年、各西野山中臣町）。下右は京都刑務所の職員運動会（昭和32年頃、東野井ノ上町）。

## 住民大会

生コン工場の建設に反対する皆さんが、建設予定地で住民集会を開きました。その後、ここには現在の山科区役所が建設されました。（昭和39年頃、柳辻池尻町）



23-006

## 道路の開通

地元の有志が土地を提供して、山科区役所の西側の道路が開通しました。（昭和49年頃、柳辻池尻町）



37-001

## 社地会域

## 義士行列

国鉄東海道本線が電化されることとなった昭和31年11月、その記念行事として義士行列が行われました。（昭和31年、竹鼻竹ノ街道町）



1-010



18-002

## 料理教室

山階小学校の隣にあった、元山科村役場の建物内で行われた料理教室。かっぱう着が皆さんお似合いです。（昭和24年頃、西野大先町）



31-020

## 奉納舞踊

毘沙門堂での行事で、和服を着た女性が舞踊を舞う様子が写っています。袴（かみしも）を着る男性や、周囲を気する子どもが見えます。（昭和6年、安朱稲荷山町）

## 懐かしアルバム～暮らし編～

## 教え子と一緒に

山科最初の市営住宅。鉄筋スレート葺き平屋建てで、6軒が軒を連ねていました。6帖の和室と2帖の台所だけで、風呂は柳辻の銭湯に通いました。「娘を抱いて、訪ねてきた教え子と写した記念の1枚です（吉田さん）」（昭和44年、栗栖野中臣町）



12-032



1-038

## 行楽日和

山科が一望できる疎水の土手に来たグループ。すぐ下には、国鉄東海道本線の線路が見えます。（昭和37年、四ノ宮柳山町）

## 竹やぶの開墾

当時は食糧難のため、山科の各地で竹やぶが開墾されました。帽子の青年が中学生の高山さん。「一家総出で竹やぶを開墾した後、水田を作っている1コマです。大変な苦労でした。水が入ったときの嬉しさは忘れられません（高山さん）」（昭和23年頃、大塚壇ノ浦）



17-004

## リファミ

## 縁側で将棋

木枠のガラス戸や障子を開放つと夏でも涼しい風が縁側にそよぎました。ステテコや浴衣姿で、のんびりと将棋を指しています。（昭和30年代、場所不明）



31-026



5-031

## 薬草園で働く人々

竹やぶが背後に広がるこの地は日本新薬の薬草園でした。ここで栽培されたミブヨモギから作られた薬は、当時ほとんどの国民に寄生していた回虫を激減させました。周辺の農家の人々が農繁期以外はこの薬草園に働きに来ていました。（昭和初期、大宅坂ノ辻町）



5-053

## 農家の人々

近所の人々が農作業を手伝っていました。2列目の男性が持っている箱形の農具は、麦の穂と実を振り分ける際に用いられたものです。（昭和初期、東野近辺）

## 土葬

この行列が山科で最後の土葬行列だったと聞いています。お花を抱える人の後ろには、傘を持つ人が見えます。もう1本後ろに見える傘の下には、正装したご住職がいます。（昭和37年、柳辻）



1-048

## 防空壕

戦時中、防空壕が各地に掘られ、家庭でも庭に穴を掘るなど大変な苦労でした。こちらの骨組みには竹が使われています。（昭和19年頃、竹鼻竹ノ街道町）



37-004

## 火葬

霊柩車で火葬場へ。当時のお葬式の多くは、故人が慣れ親しんだ自宅で行われました。（昭和41年、安朱北屋敷町）

## お葬式



31-006

# 懐かしアルバム 田畑・野山編

## 暮らしの中の農作業

かつては牛馬に鋤(すき)を引かせ、男も女もお年寄りも子どもも一家総出のうえに、ご近所さんも手伝って、田植えや稲刈りの重労働を乗り切っていました。その頃の農作業には、牛や馬もなくてはならない存在で、家族の一員でした。



1-019

### 牛で耕す風景

鋤(すき)を引く農作業の様子。ゴルフ道から南東を写したもので、竹やぶの手前には音羽川(山科川)。のどかな田園風景ですが、人にも牛にも重労働でした。(昭和19年頃、音羽野田町)

## 田植えの風景

鉾(かすり)の前掛けに姉さんかぶり、タスキに手甲(てこう)、脚絆(きゃはん)姿で田植えをする女性たち。こちらは、岩屋神社に奉納するお米を作る神聖な水田で、現在も区役所の近くにありますが。(昭和30年頃、柳辻西浦町)



18-010

## 菅葺きと稲架の風景

奈良街道沿いの旧家。籾(もみ)を電気乾燥する今となっては懐かしい稲架(はさ)のある風景です。(昭和39年、音羽前田町)



1-025



31-034

## 脱穀風景

明治末に発明された足踏回転脱穀機は、従来の道具の8倍の能率をあげたこととです。後ろには安朱の山が見えています。(昭和20年代前半、安朱北屋敷町)



5-003

## 薬草園での1コマ

日本新薬の薬草畑とそこで働く農家の人。後方には、竹林が見えています。(昭和初期、大宅坂ノ辻町)

## 山科の竹やぶと筍

山科には、昔からたくさん竹やぶがありました。現在では都市開発により、そのほとんどが消滅してしまいましたが、山科の竹やぶは質が良く、宮中に献上されていたそうです。



4-196

竹が建物に覆いかぶさり、まるでモンスターのようです。(昭和45年頃、場所不明)

山科は昔から筍の名産地でした。男性が手に持っている道具は筍を掘る特殊なもので、地中に埋まっている筍をテコの原理で掘り出すことができます。「写真は義父です。その季節になると毎朝山へ掘りに上って、家の前に並べて売っていました(林さん)。(昭和8年、安朱稲荷山町)



31-035

## 懐かしアルバム～田畑野山編～

## 田植え休憩中

田植え中のひととき。「畑にいるのが一番楽しい。畑は私のいこいの場(林さん)。」この山科の地に生まれ、この土地を愛し、この土地とともに生きてこられた方です。(昭和35年頃、観修寺平田町)



33-003



27-002

## 小山の農地

現在の名神高速道路京都東ICの南東回りから東を写したものです。デコボコ道を荷車が行き、左には水車が回っています。米搗きや製粉などの作業に水力は重要な動力でした。光の差し具合から朝の光景でしょうか。(昭和30年、小山西御所町)

## 野つぼ

住宅や建物並びは、渋谷街道筋。山科の都市化初期には、まだまだ水田風景が見られました。あぜ道の左は下肥を貯めておく野つぼ。今では全く見られなくなりました。(昭和34年頃、御陵四丁野町)



1-030



6-012

## 肥え桶

親子でかい棒に吊るして運んでいるのは、田畑にまく下肥。現在は鶏糞や化学肥料が主となり、かつてのような苦労は見られなくなりました。(昭和30年頃、小野葛籠尻町)



4-185

## 農作物の洗い場

用水路にたたきを作り、周りを建物で囲った農家の共同洗い場。京の町へ振り売りに出かける農家にとって、雨風や雪を凌ぎ、作物の泥を落とす大切な作業場でした。今はポンプですが、当時は湧き水が流れていて冬でも暖かかったそうです。(昭和45年頃、柳辻封シ川町)

## 山科の農業の営み今昔

山科は天皇家の土地(禁裏御料地)として、宮中に献上する作物などを栽培するところで、良質の作物が採れる田畑が広がっていました。戦後も採れたての野菜や卵などをリヤカーに積んで京の町へ振り売りに行く農家もありました。また観修寺周辺には農園が点在し、ぶどう狩りや芋掘りなどの行楽地として関西一円から人々が訪れます。

## ぶどうも献上

ぶどう園の温室。写っている3人は、農閑期を利用して働きに来ている村の人達のようなです。「真ん中に植えてあるのは、すいかか、まくわ瓜です。ぶどうは宮中に献上していました。献上となると、家族の身体検査が厳しく行われ、幼い私はそれが嫌で、お風呂場に隠れていたものです(野崎さん)。(昭和初期、東野中井ノ上町)



5-005

## 三条通の振り売り



2-060

京津国道(三条通)九条山付近から眺上方面を写したものです。自転車の男性の右に、かつぼう着や前掛け姿の女性が振り売りのリヤカーに集まっています。横切る高架は東山ドライブウェイ、左は京阪京津線。「山科から九条山の坂を越えるのはとても大変でした。今でも振り売りを続けている方がいるそうです(林さん)。(昭和33年、厨子奥花鳥町)

## 現在の営み



名神高速道路の両側に広がる観光農園。新鮮な野菜やぶどう(8~10月)が買えます。(平成17年、観修寺南大日町)



# 懐かしアルバム 乗り物編

## 乗り物の発展と歴史

明治から昭和にかけて、乗り物はさまざまな形で変化を遂げてきました。人々を運び便利な世の中へ。町が発展してきた原動力となっていたのかもしれない。



3-002

### 列車



現在の花形は新快速。山科-大阪間、約35分。(平成17年、御陵大谷町)



### 新幹線のぞみ700系

最高時速285kmにも達し、東京-大阪間を約2時間半で結び列車のスピード王。山科の中央を横断しています。(平成17年、大塚丹田)



### 新幹線の高架工事

山科盆地北西の山々が見えています。花畑にいくつも突き出ている鉄骨は新幹線高架の支柱。(昭和35年頃、東野中井ノ上町)

### 東海道本線を煙を吐いて走る蒸気機関車

この頃は蒸気の動力で力強く走るSLが東海道本線を走っていました。煙を吐いて汽笛とともに過ぎ去る様はとても格好よく、人気がありました。上の写真は東山トンネルを出て雪景色の中を山科駅へと向かう大カーブを見事に捉えたショット。トンネルの中ではススで煙たがったそうです。(昭和30年、御陵久保町)



39-002

三条通、手前が山科で向こうは京都方面です。電車は蹴上へ向かうところ。車道はまだ3車線で、時差で車線変更になる仕組みでした。(昭和50年頃、厨子奥花鳥町)



2-056

### 地上を走る京阪京津線

御陵踏切を京阪電車が、チンチンと音を鳴らしながら通ります。平成9年まで走っていました。通勤時間帯は三条通が大渋滞でした。(昭和33年頃、御陵進藤町)

### バス

#### バス登場

山科にもバスが開通しました。手前は作物を運びリヤカー。(昭和30年頃、小野葛籠尻町)



#### 木炭バス

当時はガソリン不足で、木炭を燃料に走っていました。後ろには、木炭を燃やす装置が付いています。木炭の煙で、発車オーライ！(戦中戦後、場所不明)

1-046



6-004

#### 京阪バス山科停留所

醍醐・六地藏方面への発着所として京阪電車の線路横にありました。(昭和30年頃、安朱棧敷町)



19-011

## のどかな交通事情

### 人力・牛馬力



東海道(旧三条通)の五条別れ道標から西を見えています。自転車には職人さん、リヤカーは野菜売りのおばさんと、移動はもっぱら人力でした。自転車の後ろには三輪自動車(ミゼット?)が見えます。(昭和33年、御陵中内町)



1-001

京津国道(三条通)を南側の建物2階から見下ろした様子。行商のリヤカーが点在しています。(昭和25年頃、竹鼻竹ノ街道町)



11-002

京都薬科大学の前にて。肥料を運ぶ牛車ガのんびりと行き過ぎます。(昭和18年頃、御陵中内町)



19-022

5頭ほどの馬で運送業を営む山田さんの凛々しい乗馬姿です。旧三条通の家に馬小屋があったそうです。(昭和初期、四ノ宮大将軍町)



19-023

ボンネット型のトラックは木炭車です。運送店の車でした。(昭和22年頃、安朱中小路町)

### 自動車 くるま時代の到来



31-005

安朱消防分団の皆さんが、消防車で記念撮影。荷台に伸び縮みするハシゴらしきものが見えます。(昭和30年頃、安朱馬場ノ西町)



1-049

神社のお祭(昭和43年、竹鼻竹ノ街道町)



31-003

タクシー(昭和41年頃、安朱南屋敷町)



30-001

小さいですが、灯籠の右にサイドカーが写っています。側車と呼んでいました。右付きと左付きの両方がありました。(昭和11年頃、將軍塚)

### 今も健在!

#### オート三輪

(平成17年)

昭和30年頃が全盛期、エンジンの音からか、「バタバタ」と呼んでいました。当時はバイクのようなハンドルに前照灯が1灯付いていました。写真は山科川沿い離宮橋のたもと、池本鉄筋さんのお仕事で現役です!



### 配達業こぼれ話

#### 東海道飛脚 ゆかりの井桁

昔は飛脚という荷運び等専門の人たちがいました。四ノ宮地蔵前が、休憩の場所だったようです。運送会社の社章にも使われている刻字がこの井戸に。



(平成17年)

#### 郵便で活躍した自転車とバイク

トレードカラーの真っ赤な自転車とバイク。現在の山科郵便局の地下車庫です。今では見かけなくなりましたが、年賀状配達の際には大活躍するそうです。



(平成17年)

# History

## 年表

### 山科の古代から現代

写真集 **モノクローム ヤマシナ**

未来へつなく山科の記憶

時代	年号	西暦	できごと	国内外の動き	関連頁
旧石器 ～縄文			栗栖野の台地を中心に人が住み始める		20
弥生			山科各地に集落、栗栖野には大集落ができる		20
飛鳥	天智 8	669	中臣鎌足、精舎（山階寺）を建立	645 大化の改新	
	天智 10	671	天智天皇が亡くなる		12
	文武 3	699	この頃、天智天皇山科陵ができる		12
平安	弘仁 2	811	坂上田村麻呂が亡くなる	794 平安遷都	20
	嘉祥 1	848	安祥寺ができる		
	貞観 1	859	仁明天皇第四皇子人康親王、四ノ宮の山荘に住む		
	元慶 1	877	元慶寺ができる	874 醍醐寺ができる	16
	昌泰 3	900	勤修寺ができる		20
	正暦 2	991	曼荼羅寺（後の随心院）ができる		18
室町	文明 10	1478	蓮如が野村（西野）に山科本願寺を建て始める	1467 応仁の乱（～1477）	15・20
	天文 1	1532	山科本願寺が焼かれる	1582 明智光秀、栗栖野で討たれる	15・20
江戸	寛文 5	1665	毘沙門堂、安朱に復興される	1600 関ヶ原の戦い	12
	元禄 14	1701	大石内蔵助、西野山に隠れ住む	1702 赤穂義士討入り	29
	宝永 4	1707	沢村道範、五条別れの道標を建てる		34
	享保 17	1732	西本願寺山科別院、東野にできる		
	元文 2	1737	東本願寺山科別院、竹鼻にできる		16・21
	享保 21	1736	木食正禪が日ノ岡峠を改修、人馬道碑を建てる		
	文化 2	1805	大津～三条大橋間に車石が敷かれる		11
明治	明治 5	1872	西本願寺山科別院内に東野校開校 勤修寺内に勤修校開校	1872 学制発布・徴兵令公布	8・16・23～27 26
	明治 10	1877	日ノ岡峠改修工事完成		
	明治 12	1879	京都～大谷間、鉄道開業（翌年、京都～大津間開業）		
	明治 13	1880	東野校、現在の場所に移転し、山階校になる		8・16・23～27
	明治 14	1881	勤修校、現在の場所に移転する		26
	明治 22	1889	宇治郡山科村になる	1889 京都市制 施行	9
	明治 23	1890	第一琵琶湖疏水が完成	1895 平安遷都1100年祭	7・12・22・28
	明治 36	1903	城山菊太郎、温室ぶどうを東野で栽培する 山科郵便局、四ノ宮に開局		32 9
	大正	大正 1	1912	京津電鉄（三条～大津札の辻）開業	
大正 10		1921	京都～大津間の鉄道、現路線に変更 日本絹布、西野に工場建設（翌年、鐘紡に吸収）		33 9・15・29
大正 12		1923	志賀直哉、竹鼻に住む	1923 関東大震災	
大正 14		1925	東野にゴルフ場ができる		14
大正 15		1926	宇治郡山科町になる		9

時代	年号	西暦	できごと	国内外の動き	関連頁
昭和	昭和 2	1927	竹やぶを切り開き、竹鼻に和楽園を造成 山科映画館、竹鼻に開館	1927 金融恐慌始まる	10
	昭和 4	1929	花山天文台完成。一燈園、四ノ宮に開園		8
	昭和 6	1931	京都市に編入（東山区山科） 京都刑務所、東野に移転	1931 満州事変	9 8・29
	昭和 7	1932	山科警察署、竹鼻に開署	1932 五・一五事件	10
	昭和 8	1933	京都薬学専門学校（現京都薬科大学）、御陵に移転	1932 京都市人口100万人突破	8・27・28
	昭和 9	1934	京津国道（三条通）開通 ダンスホール、日ノ岡に開業 蓮如上人銅像が西野にできる（昭和19年撤去）		11・16・32～34 15
	昭和 10	1935	大石神社、西野山に創建	1936 二・二六事件	
	昭和 13	1938	山科公設市場、竹鼻に開設	1941 太平洋戦争始まる（～1945） ・市内各小学校、校庭の農園化 ・市全域に「町内会」設置	6
	昭和 18	1943	東野のゴルフ場が閉鎖される		
	昭和 22	1947	大石順教尼、身障者福祉施設を仏光院とする 山科中学校新設（山階校に併設 昭和24年移転）	1947 日本国憲法施行 1948 国連総会、世界人権宣言採択	24
	昭和 26	1951	疏水の舟運、60年間の任務を終える 東山区役所山科支所、竹鼻に開所	1950 朝鮮戦争起こる	7・12・22・28
	昭和 27	1952	京津国道が国道1号となる		11・16・32～34
	昭和 29	1954	洛東高等学校、安朱に開校		
	昭和 31	1956	東海道本線（米原～京都）電化完成 モデル団地として、勤修寺第1市営住宅建設	1956 日本、国連に加盟 1957 ソ連、世界初の人工衛星打ち上げ	29 19
	昭和 34	1959	東山ドライブウェイ開通	1959 安保闘争起こる	
	昭和 38	1963	名神高速道路（栗東～尼崎）開通	1960 カラーテレビ放送開始	17
	昭和 39	1964	東海道新幹線（新大阪～東京）開通	1964 東京オリンピック開催	8・33
	昭和 42	1967	外環状線（山科～観月橋）開通 五条バイパス（国道1号）開通 橘女子大学（現京都橘大学）、大宅に開校	1966 日本総人口1億人突破	8・13 18
	昭和 43	1968	清水焼団地完成		19
	昭和 44	1969	中臣遺跡が発見される	1969 アメリカ、アポロ11号月面着陸成功	20
昭和 45	1970	鐘紡山科工場、長浜へ移転			
昭和 46 ～50	1971～ 1975	鐘紡跡地に、山科団地などが建設される	1973 円、変動相場制へ移行	15	
昭和 47	1972	山科区総合庁舎、柳辻に開庁	1972 「日本列島改造論」発表	29	
昭和 49	1974	湖西線（山科～近江塩津）開通	1974 疏水、昭和の大改修完工		
昭和 51	1976	東山区から分区をし、山科区誕生			
平成	平成 9	1997	地下鉄東西線（二条～醍醐）開通	1995 阪神・淡路大震災	6
	平成 10	1998	RACTO山科完成		6・11

※主に写真集に掲載している写真に関連するできごとを紹介しています。

## 「パッチリ山科みつ隊」に参加して

伊藤 麻佑子（京都橋大学 文学部 3回生）

◆班の人との写真の選別は、残しておきたい写真が多い中、掲載できる写真の数が決まっていたので非常に大変でした。あれこれ悩んで決めた写真にコメントが付き、冊子の状態になったのを見て、1年半めげずに活動してきたなと思っています。

植松 花菜子（京都橋大学 文学部 3回生）

◆「懐かしアルバム暮らし編」どうでしたか？人の一生に例えて作られていますが、実は、そのアイデアの提案者は私なんです（自分で言うのも照れますが）。自分の頭の中で「こうしたら、もっとおもしろいのでは…。」ふっと思い浮かんで提案したことが、まさか採用されるなんて思ってもみませんでした。

各務 文歌（京都橋大学院 文化政策学研究所）

◆私はワークショップの議事録作成を主の役割として参加いたしましたが、こういった企画に参加すること自体が初めてで、大変楽しくかつ意義深い活動であったと感じています。何よりこの地域の新旧様々な世代の方が共通の興味と目的の元に集まり、真剣に「自分たちのまちの今・昔（そして将来の姿）」について考えるというプロセス、それが古写真収集・ヒアリング・報告書編集などのツール（段階）を通して明確になっていったことは、区民自身の力を示したという点でも大きな成果です。ワークショップでの議論が白熱するあまり議事の記録ノートが何頁にも渡り、まとめるのに苦労したこともしばしばです。それだけの「思い」の結晶だからこそ、輝くものができるのだとも思います。私自身、このまちが好きになりました。ありがとうございました！

小谷 昌代

◆社会人となり編集の仕事にたずさわり始めた頃、漠然と「いつかは地元の役に立つ何かにつながらなあ」と抱いていた夢。まずはその夢が実現したことをとても嬉しく思います。皆さんと一緒に山科のために一生懸命になれたこと、素敵な1年半でした。さまざまな媒体を編集してきた早13年。自分がこれまで培ってきたものが、生まれ育った山科の町のためにわずかですが貢献できている、それはこれまで得ることのなかった充実感です。今回のこの冊子は「山科パッチリ見つけ隊」の隊員一人ひとりが熱心に取り組み、毎回遅い時間まで活動に参加して作り上げた一冊です。きっとこの「あとがき」を走り読みするだけでも山科が好きになる。そんな本に仕上がっています。各ページには、皆が足で確かめ、人にふれて山科の温かさを体感してきた成果が満載！「力作」だと感じています。

説田 三保

◆参加して1年、先輩方のあゆみや想いを伺いながら、懐かしかったり、変貌に驚いたり。「母校」や「ふるさと」を次の世代に伝えることの大切さを感じました。これを機会に聞き取りを始めたいと思っています。

高嶋 千佳（京都橋大学 文学部 卒業生）

◆今ではもう写真に納めることができない風景や、昔と変わらない風景がある場所などをパッチリ隊の皆さんと山科を走り廻り探したことは、いい思い出です。山科を語る上で沢山の写真が集まりありがとうございました。

高橋 八郎

◆「山科が好きだ」ありったけの声で叫びたい。この写真集の編集にたずさわってそう感じました。知ることは愛することにつながりました。そして今見てくださっているあなたも同じ気持ちになってくださればうれしいです。

谷 怜香（京都橋大学 文学部 3回生）

◆勉強以外に何かやりたいと探していた矢先に、このプロジェクトを知り応募しました。最初はついていくのが精一杯で手探り状態でしたが、だんだんメンバーの方とも打ち解けてきて活動にも積極的に参加でき、山科の町並みや店を注意深く観察するほど山科好きの人間になっていました。中でも夏休みに行った取材は本当に有意義で就職活動にも影響を与えました。この冊子で一人でも多くの方に山科の魅力を知っていただき、好きになっていただけたら本当に嬉しいと思います。

谷口 明

◆現在の山科を撮影するため、將軍塚に登り花山天文台へ行きました。山科の町は笹の葉が擦（す）れ、小鳥たちも囀（さえず）っていて、町へ下ると流水の音や川には糸蜻蛉（いととんぼ）が飛んでいます。土手にはタンポポ、蛭（ぼたる）も灯りをともします。また、静かに音羽山より白い満月がのぼります。撮影の際、牛尾の観音様に立ち寄り「このまま、このまま、いつまでも永久に」と念じました。山科は良い町です。住みたい町と思いませんか。

土山 年雄

◆「偶然撮った写真が今では貴重に」。「普通の風景写真が実は歴史を感じる貴重な写真」。「小さな写真も拡大すると撮影当時、またはその瞬間の時代風景などを発見」。「写真に写っている建物や自然環境などから、今まで知らなかった事実を発見」。等々、1枚1枚の写真に隠された撮影者の意向やその写真が語りかけているものについて、今回のワークショップを通じ、特に感じました。約1年半にわたり苦労を共にしてきた人々との交流に感謝するとともに、この写真集は長く後世に生き続けていくと思います。

中内 智映子（京都橋大学 文化政策学部 4回生）

◆私がこのプロジェクトに参加したのは短い期間でしたが、山科という町の発展に驚きました。山科は大学生活の拠点として過ごしていますが、自分が住んでいる町の歴史を辿ることは価値のある体験だと思っています。

中村 幸代

◆山科区役所30周年の記念に計画された写真による「昔の山科」、「今の山科」を記録するという企画はとても有意義だと思い、参加させていただけたことをとても嬉しく思っています。私はインタビューの係をさせていただきましたが、どなたのお話でも深く感動し胸が熱くなる思いがしました。皆さんが激動の昭和を必死に一生懸命生きてこられたこと、そしてその上に今の平和な平成の世が有るのだということを若い方にも知ってほしいと思いました。写真での記録という企画でしたので、インタビューのお話を充分生かせなかったことは残念に思いますが、また次の機会に生かしてもらいたいと思います。山科がよりよい町へと発展していく為に。

西沢 五郎

◆「写真で語る山科の今・昔」のことを市民しんぶんを見て、写真のことでお手伝いできないかと思い、軽い気持ちで参加してみました。ワークショップでは、第2次世界大戦の戦前・戦中・戦後を山科に生まれ育った私の人生を思い起こさせていただき、楽しい日々を送らせていただきました。また写真はその時代の生活や文化の記憶や、社会の変遷の貴重な記録など、語り継がれて行く手段の一つとして貴重な要素を持っていることに気がつきました。昔の写真は人物を中心に人生の記録を主な撮影に用いられ、だんだんと文化や芸術の分野まで活用されています。このワークショップに参加させていただき、昔の写真の撮影場所を探すのに苦労しました。また、家が立ち並んで同じ場所で撮影することができない所もありました。今昔の写真の合わない部分は、撮影困難な場所と見てください。色々広い範囲で写真について考え直すことができました。

藤田 真砂美（京都橋大学 文化政策学部 3回生）

◆高度経済成長する以前というのはまだ人々が皆貧しい時代で、しかしそれ以上に心豊かな時代だったのだと思います。人と人のつながり、自然の豊かさ、そして歴史的遺物、物がなくとも幸せな生活を送る人々がこの山科にいたということが、古い写真を通じて私に伝わってきました。この写真を見て、古き良き時代を懐かしむだけでなく、今の山科の発展が長い年月の歴史の積み重ねであることを認識し、街の財産が何かを気付いてもらえたらと思います。そして未来に受けつがれるよう守ってほしいです。

古川 尚美（京都橋大学 文化政策学部 4回生）

◆写真ワークショップに参加し、一枚の写真から人々の生活や時代背景、まちの様子など沢山のことを読み取ることができると知りました。写真を通じ多くの方に「今」と「昔」の山科の魅力を感じていただきたいと思います。

松尾 桂三

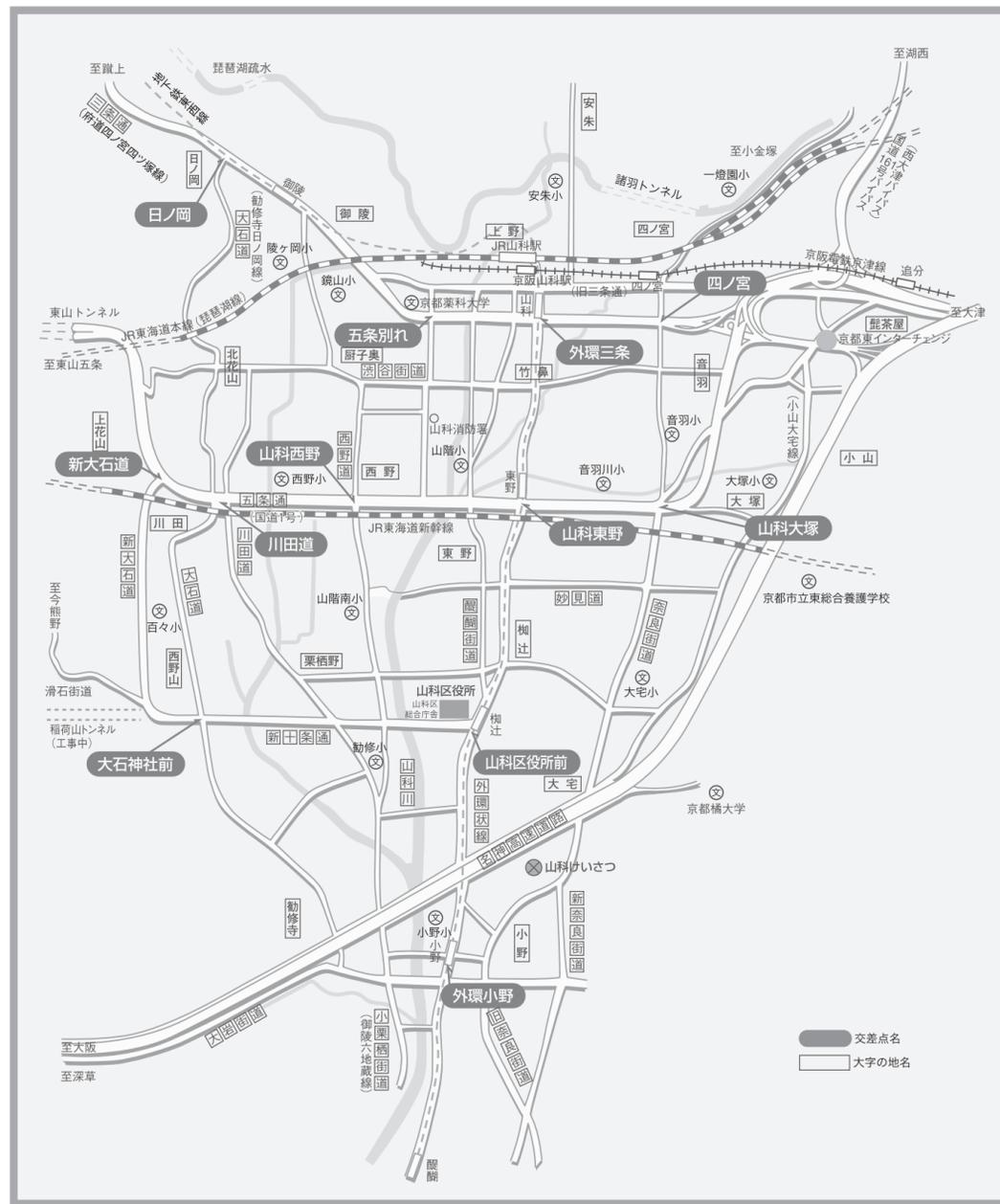
◆自称足軽の私です。山科在住40年、仕事に遊びに飛び廻った記憶が古い写真の場所特定にお役に立てたようです。激変した街並、古い写真そのままに変わらぬ処、驚きと感動の日々でした。こんな楽しい機会を与えてくださり感謝しております。

松田 榮津子

◆写真の中に時代や人々の暮らし、思いを見ることができますが、これらをまとめる作業は大変難しく、時間もたくさん費やしました。より多くの方に活用していただきたいです。

# Yamashina Map

## 山科区 地図



# Old Photos

## 制作協力

### 写真提供と取材に協力いただいた皆さん (五十音順、敬称略)

- |        |             |        |
|--------|-------------|--------|
| 明石 昌之  | 四手井 綱英      | 野田 律子  |
| 阿口 志奈子 | 進藤 謙二       | 早川 増一  |
| 足立 魁   | 鈴木 百合子      | 林 正子   |
| 有坂 慶治  | 高山 弘        | 林 美智子  |
| 市川 正三  | 多賀谷 康三      | 宮澤 堂   |
| 岡本 洋   | 竹谷 誠一       | 薬師寺 昭子 |
| 岡本 満   | (京の田舎民具資料館) | 安田 和雄  |
| 奥田 甲子男 | 出口 妙子       | 山崎 正治  |
| 奥田 貞之  | 外村 米        | 山田 雄三  |
| 奥村 俊一  | 中野 和        | 山本 英子  |
| 片岡 敬之  | 中村 悦子       | 山本 九十九 |
| 小山 陽子  | 中村 学        | 吉田 喬   |
| 佐竹 保雄  | 野崎 アキ       | 吉村 百合子 |
| 澤田 敬次  |             |        |
| 沢村 清夫  |             |        |
- ※提供者、協力者の中には、すでに故人となった方もおられますが、そのまま掲載させていただきました。

### 協力機関 (五十音順、敬称略)

- 勤修小学校
- 京都大学花山天文台
- 京都薬科大学
- 山階小学校
- 日本新薬(株)
- 山科植物資料館
- 福田金属箔粉工業(株)
- 山科中学校

# Staffs

## 企画・監修

### コーディネーター

- 京都橘大学文化政策学部助教授 木下 達文

### アドバイザー

- 山科の歴史を知る会会長 山本 正明

### 事務局

- 山科区役所区民部 まちづくり推進課

### パッチリ山科みつけ隊 (五十音順、敬称略)

- |        |        |                            |
|--------|--------|----------------------------|
| 安藤 ともみ | 説田 三保  | 中村 幸代                      |
| 飯田 有真  | 高嶋 千佳  | 西沢 五郎                      |
| 伊藤 麻佑子 | 高橋 八郎  | 藤田 真砂美                     |
| 伊東 保泰  | 谷 怜香   | 古川 尚美                      |
| 植松 花菜子 | 谷内 玲香  | 増田 喜代子                     |
| 大久保 昌子 | 谷口 明   | 松尾 桂三                      |
| 各務 文歌  | 土山 年雄  | 松田 榮津子                     |
| 小谷 昌代  | 中内 智映子 | デザイン・DTP制作<br>REPEPP 小谷 昌代 |



山科の竹やぶ

## あとがき

**昔**から山科に住み、その変貌を見てきましたが、山科は自然に恵まれた美しい土地であったのだと、寄せられた多くの写真から懐かしく思い出しました。

この企画に参加された方は、聞き取り・現地調査・編集など非常に熱心に取り組み、各自の山科を発見されたように思います。山科に非常に興味をもったとのご意見を聞きうれしく思いました。十分なアドバイスはできませんでしたが、写真の撮影された年代、場所を考えつつ、頭の中で自分史を作っているような思いがして、楽しい貴重な体験となりました。

今後、これを機会に、もっと多くの写真が蓄積され、丁寧に読み込まれて、山科に住む私たちの共通の財産として活用されるようになることを願っています。

アドバイザー

山科の歴史を知る会会長 山本 正明

## 残したいもの

山科の竹やぶ、疏水の桜、蜷、神社の祭り、田畑、残り少ない土塁跡。自然いっぱいのヤマシナのまち。

数少なくなった商店街、昔ながらのお店、街道沿いの旧家、銭湯、地の野菜、振り売りの行商。昔ながらのヤマシナの面影。

虫取り、外遊び、縁側、家族団らん、近所付き合い、地域の行事。ヤマシナに暮らす人々の笑顔。

この写真集を作り上げる過程で、隊員皆が実感した、ヤマシナにある未来へ残すべきたくさんもの。この写真集を通して、皆さんに少しでも伝わり、未来永劫、残っていくことを願ってやみません。

(パッチリ山科みつけ隊一同)



## 写真集 モノクローム ヤマシナ

未来へつなぐ山科の記憶

発行者 山科区役所区民部まちづくり推進課  
〒607-8511 京都市山科区榎辻池尻町14-2  
TEL075-592-3088 FAX075-502-8881

発行日 平成18年 3月

京都市印刷物 第173212号